

NQ版COO人材育成プログラム



Alloy Therapeutics Japan

NQ版COO人材育成プログラム

Global BioPharmaで培ってきた
技術・ネットワーク・ノウハウを
Nakanoshima Qrossに導入し

日本人の国民性に合ったベンチャーイノベーションを
皆様と共に創り上げていきます

会社概要

Alloy Therapeuticsはボストンを本拠地とするユニコーンバイオテックです。iPS細胞治療のチームを核に新たに日本で子会社を設立しました



ANTIBODIES



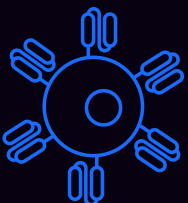
BISPECIFICS



TCRs



GENETIC MEDICINES



CELL THERAPIES



DELIVERY

会社名	Alloy Therapeutics株式会社
設立	2024年11月
社員数	13名 (正社員11名・パート2名)
本拠地	神奈川県藤沢市村岡東2-26-1 (湘南アイパーク)
親会社	Alloy Therapeutics, Inc. (米国ボストンに本拠地) 設立2017年・社員数：110名・アメリカ・英国・スイス・日本に5つの拠点
事業内容	最先端の創薬技術ライセンス業務・創薬支援サービス 創薬ベンチャーの起業と運営・VC投資業務 人材育成・エコシステム構築
資本金・企業価値	\$134m (Paid in Capital); \$792m Post Valuation^
主力投資家	Ulysees Diversified Holdings, 8VC, Mubadala Investment Co, Thiel Capital, Presight Capital



自らが1,000億ドルの
メガファーマになるのではなく、

新薬の開発に成功するベン
チャーを100社育てたい

バイオテック業界で「勝ち組」の治療薬は様々な知財・独占技術によって支えられてきました。そのライセンスには高額な一時金などが必要で、大手製薬会社やCash Richなバイオテックのみにアクセスが可能でした。Alloyはこの様な「飛び道具」を揃え、アカデミアや小さなバイオテックでもアクセスが可能なビジネスモデルで一つでも多くの治療薬を臨床に、そして患者様に届けることを本業としております

Alloy Japanは今まで日本のエコシステムで得られなかった「飛び道具」をお届けします

バイオテックを支援： Dren Bioとの提携

Dren Bioの創業者たちを紹介された当時、彼らは最初の資金調達ラウンドの真っ最中で、手頃な価格で機動力のある**抗体創薬パートナー**を探していました。最初はATX-Gxマウスプラットフォームのライセンス取得から始まりましたが、最終的にDren Bioのチームは**作業を直接Alloyに移管**し、2020年初頭に開始された当社の**抗体創薬サービスの最初の顧客**の一つとなりました。

With \$1B already in for Dren Bio, **Pfizer** adds to pile in \$65M financing

Jun 14, 2022

Novartis hopes for better luck with bispecifics via \$150M upfront Dren Bio deal

Jul 24, 2024

Sanofi pays \$600M upfront for Dren Bio's bispecific in latest immunology play

Mar 20, 2025

Alloy Discovery Servicesは、信頼できるパートナーであり、私たちの**チームの一部として活躍**し、現在では当社のEnhanced ADCC Programにおけるリード候補治療薬となった抗体に大きく貢献してくれました

Nenad Tomasevic, PhD, Dren Bio'の創業者・CEO

<https://alloytx.com/discovering-novel-therapeutics/>

<https://www.fiercebiotech.com/biotech/pfizer-joins-dren-bio-investors-65m-series-after-1b-oncology-collab-biotech>

<https://www.fiercebiotech.com/biotech/new-growth-novartis-pharma-announces-partnership-dren-bio>

<https://www.fiercebiotech.com/biotech/sanofi-pens-19b-deal-dren-bios-bispecific-latest-immunology-play>

事業開始から6年目：個別のバイオテックから大手製薬会社に展開

180+

拡大し続けるパートナー
ネットワーク

80+

進行中の共同創薬
プログラム数

\$2.5_B USD

Alloyライセンスパート
ナーの資金調達の総額

18

世界のトップ製薬企業も
Alloyと提携

19

パートナーが提出した
INDの実績 (2019から)

14

82VS Venture Studios
より起業の件数

アカデミアから製薬会社まで様々なパートナーとの信頼関係を築き、
その協業を通じて数々の創薬の臨床入りを実現してきました

180+

拡大し続けるパートナー

70+

進行中の共同創薬

\$2.5B USD

Alloyライセンスパートナー

Alloy は日本の創薬エコシステムが必要としている

技術基盤・ネットワーク・ノウハウを

VCを含むGlobal BioPharma市場で培ってきました

世界のトップ製薬企業も
Alloyと提携

パートナーが提出した
INDの実績 (2019から)

82VS Venture Studios
より起業の件数

創薬支援事業から総合バイオインフラ会社に展開



今までのAlloyは**新薬のComposition of Matter**が生まれる瞬間に特化した創薬支援事業を基に成長してきました。今後は戦略投資や戦略提携を通じて**製造・臨床開発業務**に積極的に展開して行きます。開発事業との融合は**パートナー案件の開発スピード・成功確率の向上**に繋がり、また**Alloy Ecosystem**で統合する**データ・AIとの連動を業界無二**の立ち位置に引き上げる期待があります

現時点までの事業

知財

ライセンス
事業

創薬

前臨床CRO
事業

起業

ベンチャー
スタジオ

製造

治験薬製造
CDMO事業

開発

臨床CRO
データ事業

今後の展開

エコ

エコシステム
開発事業

財団

非営利・社会
福祉事業

Alloyは日本のエコシステムに何が貢献できるか？

ボストンから見た日本：機会と課題

3位

GDPに基づく
経済の規模

25万人

バイオ関連の
研究者人口

1.5兆円

国内製薬業界
の研究開発予算

日本は数々の**ノーベル賞受賞者**や**歴代のブロックバスター新薬**を輩出してくるもグローバルのバイオ産業と「**かみ合っていない**」印象も伺えます

- 業界としてBiologics・**抗体関連治療薬で遅れをとってしまった**。日本のエコシステムでは最先端の創薬技術へのアクセスが乏しく、初期臨床治験を支えるCDMOが無い
- 日本の技術要員は安定しており、データの安全性も質も高い。ここ数年で日本の技術員は**労働コストでインドや中国の上位と並んだ**
- アメリカを中心に臨床治験コストは高騰しており、改善の兆しも見えない。それに対して日本では**リーズナブルなコストで高品質の治験**が可能

Alloyが**日本の潜在的な強み**を活かす仕組みを創り出すエコシステムが構築できれば**グローバルの創薬に大きな貢献**ができます

日本のエコシステムへのコミット

Alloy Japanの設立以来、当社は日本のエコシステムのステークホルダーと面談を交わし、ご指導頂きました



湘南iParkでAlloy
Therapeutics Japanとして
2025年4月にローンチ



国立がんセンター東病院
土井俊彦先生と当社82VS EVP
Michael Kalosの意見交換



迫井正深医務技監・厚労省・
経産省の皆様が
Alloy Boston本社を訪問



Nikkei創薬サミット2025に
ファイナリストベンチャーと
して登壇



日本語学習にコミットしたAlloy本体
のメンバーがAMEDを訪問
厚労省・経産省の方々も参加

日本のエコシステム関係者からのフィードバック

技術基盤

日本に不足しているグローバル水準の抗体創薬技術をAlloyは補うことができるのでアカデミアや中堅ファーマの支援にご要望

Venture Studios

日本の起業家が海外資金調達に必要なコンセプト選びやネットワークがあり今後創薬クラスター支援事業などの支援に参加を予定

日本へのコミット

日本の研究者の雇用・本社のメンバーに日本語教育の推進など総じて好評

Alloy Japanはパートナーと共に具体的な活動に邁進して行きます

日本のエコシステム事業に欠かせない82VS Venture Studios

大学
新規技術
新しい標的
バイオロジー

82VS Venture Studios
勝てる創業の為に飛び道具
実行する人材・Apprenticeship

創薬・臨床・
トランスレーショナル
研究

地方蘇生
リスクマネー
助成金

サイエンスパーク
インキュベーター・アクセレーター
場の提供・マッチング
有識者からの学び

グローバルで資金調
達ができる
バイオテック



Alloy Therapeuticsが**エコシステムの開発**に関与する場合、自社の技術基盤以外に82Vベンチャースタジオの導入により「**飛び道具**」と「**推進するヒト**」が入ります

日本語学習に**コミット**したAlloy本体のメンバーが**中之島クロス**で**澤芳樹先生**と訪問

【課題】：**ボストンやバイエリアを目指すエコシステム**は多々ありますが、その殆どが**似た課題を共有**。大学の技術・投資資金や助成金は豊富・サイエンスパークなどが「場」を提供し、マッチングや有識者の講演などイベントも多々ありますがなかなかバイオテックが育たない

【課題】：Alloyは上記のようなエコシステムに「**飛び道具**」と「**推進するヒト**」の**二つが不可欠**と考えます。飛び道具は自社の技術基盤で補うことが可能ですが、推進するヒトは容易に集まりません

【仮説】：82VS Venture Studiosが中之島Qrossで「**NQ版COO人材育成プログラム**」を設け**現地でリクルートし育成**します。この企画は既に**アメリカのダラスで実施**されており、**日本では初めて**の実施になります

・82VS Venture Studiosでは新人の起業家・COOを養成するためのマニュアルなどが整備されており、**実体験を通じて**起業・運営を学んでいきます（**Apprenticeship**）

Nakanoshima Qross版 COO人材育成プログラム

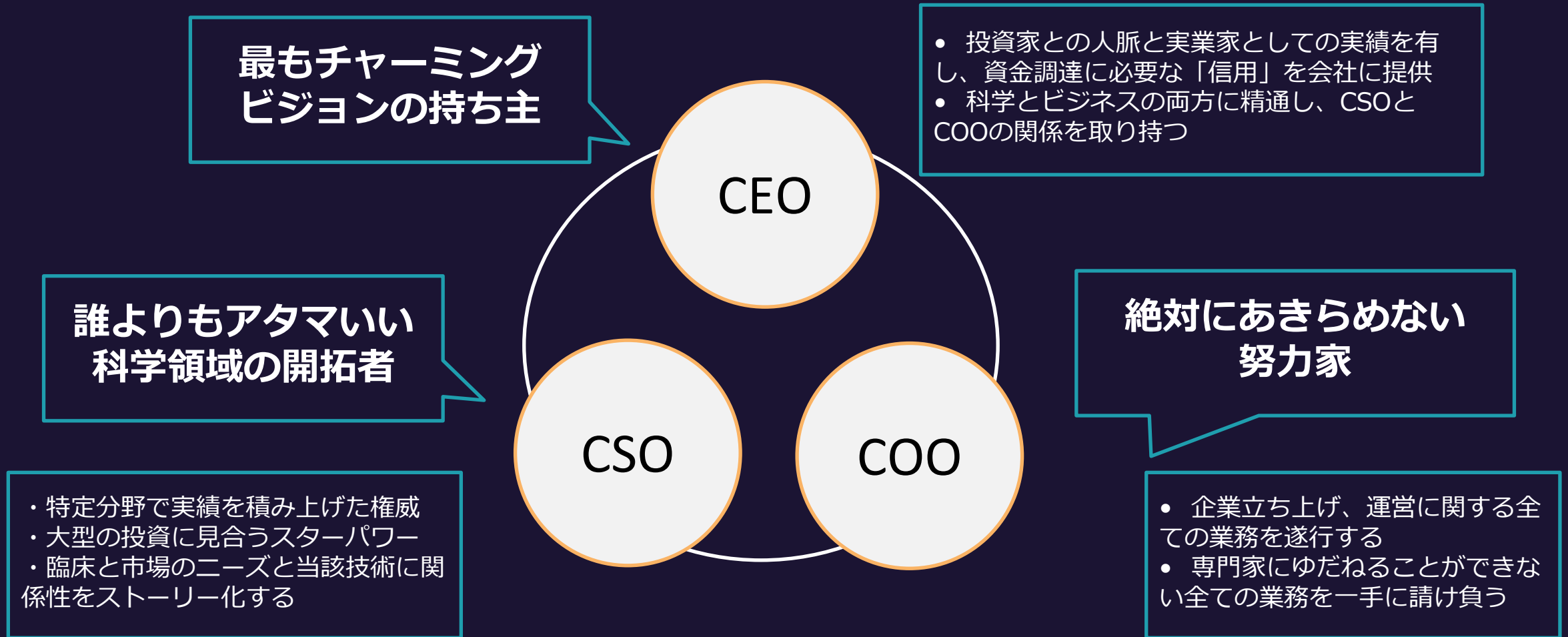
概要	・ 9週間の社会人向け研修プログラム ・ 3回に渡る金曜・土曜に行う1.5日間の「合宿」 ・ 平時時間外にオンライン授業（60分）
受講生	20名の受講生・傍聴生のオプションあり
対象	a) バイオテック領域スタートアップにてビジネス開発・運営業務に従事している方 b) バイオテック領域において起業に興味を関心を有する下記条件のいずれかに合致する方 ・ アカデミアや製薬会社で一定の学術経験を積み上げた研究者 ・ 製薬業界・一般事業会社で一定の業務経験を積み上げたビジネスパーソン ・ コンサル・金融業界で一定の業務経験を積み上げたビジネスパーソン ※Nakanoshima Qrossに入居済、入居予定のスタートアップに関与される意欲のある方が望ましい
講義内容	・ 創薬ベンチャーを原型としたバイオテックの起業と運営 ・ Focus on Ideation to Series A Financing
講義のモダリティ	・ 受講生同士のディスカッションを促すケースメソッド ・ BioPharma産業で功績を挙げた方々とのパネルなど ・ 業界のプロによる講義（プレゼン形式）
期待するアウトプット	中之島Qrossを中心とした創薬エコシステムの強化

創薬ベンチャーに「興味があるけれどももう少し知りたい」と思う方々

既にベンチャーに関わっていてスキルアップを求める方々

創薬ベンチャーに向けた「伴奏支援」に関わる方々に向けられた研修プログラムです

Alloy 82VS Venture Studiosが信じる「COO」という役職



*Defined as Series A financing

Nakanoshima Qross版 COO人材育成プログラム

	ビギニング	中間点	卒業
タイトル	サイエンスが患者様に届くまで アカデミアからベンチャーへ 製薬会社から社会へ	ベンチャーの立ち上がり 選ばれるテーマと 見送られるテーマの違い	そして世界へ ベンチャーの航路を担うCOO グローバル市場とSeries A
ディスカッション	社会に求められている創薬 TPPの概念	VCファンドの仕組み VCの都合・起業家の都合	FAST PILOTS 金融市場が必要とするベンチャー
パネル	製薬業界から見た創薬エコシステム	VCから資金調達が得られるまで	VCファンドから見た創薬エコシステム
チームプロジェクト	投資テーマを調査	投資案件の企画	ファイナルプレゼン
講義	産業レベルの創薬とは	CMC・IND・臨床治験まで	
オンライン講義	モダリティーの紹介 低分子・次世代抗体・オリゴ	バックオフィスの考え方 法務・会計・人事	

当プログラムは国内ではNakanoshima Qrossでしか受講のできないNQオリジナルプログラムです

NQ版COO人材育成プログラムの希望

NQ版COO育成プログラムはベンチャーの概念と「そもそも」を重視します

- ベンチャーを成功させる「地図」を持ち「やればできるんだ」と思ってもらいたい
- 大切な時間のコミットを本当に求められている治療薬に使ってもらいたい
- VCを含んだグローバルBioPharmaとの情報の格差で負けて欲しくない

本プログラムを通じてベンチャーに関わる仕事は本当に充実した仕事と思ってもらいたい

日本の国民性に合ったベンチャーイノベーションとはどんなものか？

それを皆さんと議論しながら編み出していきたい。これがNQ版COO人材育成プログラムです

Nakanoshima Crossのウェブサイトより基本情報登録いただきましたら、登録されたメールアドレスに応募書類提出依頼を送付します

登録に必要な基本情報

- | | |
|-------------|--|
| 1. 所属組織名・役職 | 1. 現在関わっている研究・事業内容 |
| 2. 氏名 | 2. これまでの学術研究もしくは業務履歴（注:個人の経歴をweb等に公開できること） |
| 3. 氏名（ローマ字） | 3. 英語対応レベル（読み書き・会話） |
| 4. メールアドレス | 4. 本プログラムに期待すること |
| 5. 電話番号 | |
| 6. 住所（都道府県） | |

ご確認事項①：選定審査について

別途で定める審査基準に沿って、必要に応じて対面審査（状況によってはリモート会議）を実施します。

ご確認事項②：12月5日(金)オンライン・キックオフイベントについて

第1期生としてNQ版COO人材育成プログラム受講者に選定された場合、12月5日(金) 12:00-13:00に開催予定のオンライン・キックオフイベントにて自己紹介をしていただきます。

ご登録後、資料提出依頼をメールアドレスに送付しますので、提出をもって応募完了とします